

日本分析化学会九州支部 2015年度 第2回常任幹事会

日時：平成28年2月20日（土）13時00分～15時25分

場所：鹿児島大学工学部 応用化学工学科 第2棟2階42号教室

出席者（敬称略・順不同）：肥後 盛秀（支部長）、竹中 繁織（次期支部長）、  
財津 慎一（副支部長）、木下 将和（副支部長）、満塩 勝（庶務幹事）、  
中島 常憲（会計幹事）、原田 明（理事）、王子田 彰夫（次期副支部長）、  
川上 健次（常任幹事）、黒木 広明（常任幹事）、佐藤 しのぶ（次期庶務幹事）、  
末田 慎二（次期会計幹事）、高椋 利幸（ぶんせき編集委員）、  
西田 正志（常任幹事）、原田 雅章（常任幹事・分析化学編集委員）、  
松田 直樹（常任幹事）、松森 信明（常任幹事）、  
横山 拓史（幹事・第56回分析化学講習会実行委員長）

議題（担当者）

#### 1 報告事項

##### 1) 2015年度支部報告済事業

九州分析化学若手の会（満塩庶務幹事）

第28回九州分析化学若手の会春の講演会

第33回九州分析化学若手の会夏季セミナー

九州分析化学会賞・奨励賞（満塩庶務幹事）

第52回化学関連支部合同九州大会・九州分析化学ポスター賞（満塩庶務幹事）

幹事会で報告した概要の確認が行われた。

第56回分析化学講習会（横山実行委員長）

会計の最終報告が行われた。次年度繰越金が例年よりも50万円ほど多い理由として本年度はないと思われていたOPACKの協賛金50万円があったことの説明がなされた。

機器分析ワークショップ（川上常任幹事）

第3回開催の報告がお礼と共に川上健次様（ジェイ・サイエンス西日本）より行われた。ポスターの作成やテーマが芋焼酎の匂いに関するものであり、多くの事前登録があったが、前日の大雪のためにキャンセルが多かった。

##### 2) 支部関連会議（満塩庶務幹事）

第2回常任幹事会を含めて5回の会議が開催された。また日本分析化学会第64年会の実行委員会（山田淳実行委員長、九州大学）が2回開催された。

##### 3) 学会共催（満塩庶務幹事）

2月12日に開催の「鹿児島の金資源2015(Project Gold 2015)」講演会について新留康郎先生（鹿児島大学）の開催概要により説明がなされ、当日の資料が回覧された。

##### 4) 九州支部講演会・見学会（木下副支部長）

11月20日に開催された講演会・見学会の報告がなされ、お礼が述べられた。

## 5) 理事会報告（原田理事）

幹事会以降の議事について報告がなされた。

職員の給与改定と学会の財政状況について、五反田の事務局の一室の売却により、経済的には若干改善されたが、単年度で約800万円の赤字が出ており、会員の減少もあり赤字傾向は解消されていない。

来年度本部役員の5人の副会長候補者の一人として、九州支部からは今任稔彦先生（九州大学）が選出されている。九州支部より提出された来年度支部役員が認められた。

日本分析化学会第64年会実行委員会からの要望などを含めた報告書の内容が部分的に第65年会に反映されており、報告書の提出が学会運営に重用である。

分析化学会の奨励賞の規定について、授賞対象年齢を上げることが検討されており、その他の賞を設立し、学会の活性化を目指している。

## 6) 2015年度支部会計報告（中島会計幹事）

第2回常任幹事会費用まで含めた会計報告がなされた。まだ残務のため若干の差異は出るが、およそこの報告通りになる予定であることと、本年度は南九州で幹事会と第2回常任幹事会を開催したため、会議費と旅費が昨年度よりも増えてしまった。

定例の講演会開催などの準備費用として、約183万円の繰越金が必要だが、本年度の繰越金は約157万円となった。これは第64年会の収益金の半分の約275万円が入る予定で考えていたが、本部での会計処理が遅れて、配分が行われなかったためである。

本年度の学会収益の半額返還はまだ確定ではないことが説明されたが、原田明先生（九州大学）より、理事会では例年通り半額返還が行われそうな雰囲気であったとの補足説明がなされた。

## 7) 各誌編集委員会報告

Analytical Sciences（満塩庶務幹事）

宗編集委員（佐賀大学）より提出された資料の説明がなされた。

英国王立化学会（RSC）との公式な連携はできなかったが、国際学会等の共同プロモーションなどの協力関係を築くことができたことと、論文の投稿数とアクセプト数が減少傾向なので、ミニシンポジウムなどの活性化を検討している。

分析化学（原田編集委員）

幹事会以降に委員会が開催されなかったため報告事項はなかった。

ぶんせき（高椋編集委員）

新委員の富安卓滋先生（鹿児島大学）に委員を交代する。

## 8) その他

九州支部60周年記念会誌作成のための参考資料として、関東支部の60周年記念誌の回覧がなされ、新執行部へ渡された。

## 2 審議事項

### 1) 2016年度支部・本部関係役員（満塩庶務幹事）

12月に支部長より今年度役員に次年度役員候補選定の依頼が出され、それを元に作成して本部に提出した資料について説明がなされ、了承された。企業の代議員から兼業届けの依頼があることが支部長より説明された。

2) 支部役員の変更（満塩庶務幹事）

2人の幹事の追加について説明がなされ、承認された。

3) 2016年度支部予算（中島会計幹事）

第64年会の収益金約550万円の半分の約275万円がこれまでの慣例に従って支部に返還されることを見込み、九州支部の60周年記念会が開催されることを考慮して予算を立てたことが説明された。

支出の部では、次期執行部の九州工業大学は北部九州にあるため、2014年度の九州大学が執行部の時の支出を参考に見積もったことが説明された。また、60周年記念事業で250万円を見積もったことも説明された。

竹中次期支部長より、九州工業大学が天神にサテライトを持っており、そこを使うことで会議費や旅費の支出を減らすことと、60周年記念誌をPDFで作ることを考えているとの報告がなされた。

4) 2016年度支部事業計画（満塩庶務幹事）

研究発表会、講演会、講習会、その他として以下の計画概要の説明がなされた。

5) 第53回化学関連支部合同九州大会（竹中代表世話人）

2016年度は本学会が世話人であり、特別講演で杉本直己先生(甲南大学)、依頼講演で戸田敬先生(熊本大学)の計画であり、戸田先生の座長として肥後盛秀先生(鹿児島大学)にお願いしていることが説明され、承認された。また、日本化学会の会長が替わるため、特別講演を追加することを考えていることが説明された。

本大会では企業展示会をしないことを検討中であり、日本化学会九州支部の決定に従うことが説明された。横山拓史先生(九州大学)より、日本化学会は就職システムの変更のため、本大会で企業展示を行う利点が小さいこと、支出を減らす動きがあること、企業展示は別のイベントと合わせることを考えていることの補足説明がなされた。

6) 第29回九州分析化学若手の会春の講演会（満塩庶務幹事）

代表世話人の吉田亨次先生(福岡大学)より提出された会告案を用いて説明がなされ、了承された。本会告案を常任幹事会終了後の2月24日にぶんせき誌4月号のお知らせ欄への掲載依頼を行った。

7) 第34回九州分析化学若手の会夏季セミナー（末田世話人）

開催計画について了承された。第35回以降の開催時期について「試験期間と重なるので時期の変更が出来ないか」という質問がなされたが、「近年クォーター制の導入などでまた試験期間が変わる可能性が高く、調整することが難しいため、このままで

も良いのではないか」という意見も出された。今回は「北海道支部からの講演者はないのか」という質問があり、第34回では九州支部から北海道支部へ講演者を派遣することになっていることが説明された。

#### 8) 支部創立60周年記念会（竹中次期支部長）

11月18日の午前中に支部長経験者会議と幹事会を北九州国際会議場、講演会と懇親会を午後にはステーションホテル小倉で行い、19日にエクスカージョンを計画していることが説明された。記念講演では、谷口功先生(熊本大学)、Hasuck Kim先生(Daegu Gyeongbuk Institute of Science and Technology, DGIST)、Xing-Hua Xia先生(南京大学)にお願いしており、内諾をいただいている。

2016年度執行部役員に加えて、名誉世話人として今坂藤太郎先生(九州大学)と今任稔彦先生(九州大学)、記念誌作成の世話人として中野幸二先生(九州大学)と井上高教先生(大分大学)に内諾を得ている。計画はWeb上でも順次公開していく。

#### 9) その他

##### 今後の分析化学講習会について（横山実行委員長）

近年はOPACKから支援の関係もあって、開催場所が九州大学に固定されて九州大学関係者に負担が集中しているため、これを分散したいことが説明された。これについて「実行委員会を支部内に設置し、支部幹事から実行委員長を選出して、支部で企画し、選任された委員長がそれを実行することにできないか」という提案がなされた。「ポスターの送付先や印刷業者への依頼などはすでにルーチンワーク化しているため、運営費の管理と場所の確保が重用である」との補足説明もなされた。2016年度を改革の準備期間とし、2017年度から本格的に動き出したいことが説明された。

開催場所に関しては、OPACK助成を受ける前に会場を借りていた大学を含めて、第一薬科大学、福岡大学、九州産業大学、九州大学医学部(馬出キャンパス)、九州大学総合理工学等が候補に挙げられた。また、「企業としては、大学が毎回変わる方が刺激になり、良いのではないか」という意見も出された。次回の常任幹事会でシステムを作り、幹事会で実行委員長を決めて動き出してもらうという案や、最初の段階では九州大学の先生に委員長になってもらい実施方を引き継ぐ案も出された。

##### 九州分析化学会賞・奨励賞（肥後支部長）

本支部賞の説明と推薦の依頼がなされた。奨励賞の受賞規定の第2条に記載されている年齢について「もっと上げて良いのではないか」という意見も出されたが、「応募者が多い現状でさらに門戸を広げることについては慎重に行うべき」との意見も出された。また「現在本部の奨励賞の授賞対象年齢を上げることが検討されているので、それに合わせるのが良いのではないか」という意見も出された。

##### 2016年度支部役員名簿（満塩庶務幹事）

幹事の退会と、九州大学理学部の移転に伴う連絡先住所の変更について指摘され、後日確認後に反映させた。

以上